

RELATION

KYUSHU CENTRAL HOSPITAL / Regional Cooperation Newsletter

特集

da Vinci Xi Surgical System 始動

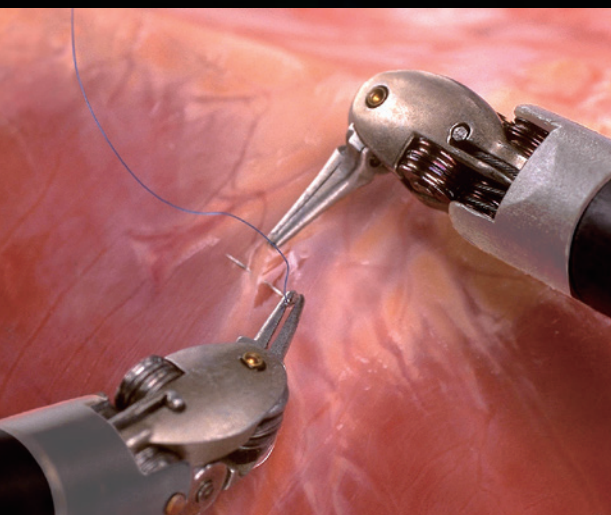


特集

da Vinci Xi Surgical System 始動

ダビンチで、さらなる 安心・安全な手術を

ダビンチは、ロボットの機能による支援によって、従来不可能とされていた手術操作を可能とします。また、最新の低侵襲技術によって、患者さんの身体的な負担の軽減が期待できます。ダビンチは革新的なシステムですが、その操作はロボットではなく、完全に医師の手によって実施されます。わたしたちダビンチ手術チームは、最新の技術に過信することなく、患者さんの安心と安全を最優先し、十分なトレーニングを積み、従来の手術を上回る安全性の確保に努めます。



▶ 安全性を最優先に、患者さんによりやさしい手術を

当 院では、患者さんにより高度で安全な医療を提供するため、この度内視鏡手術支援ロボット「ダビンチXi」を導入し、3月からロボット支援手術を開始しています。

ロボット手術では、執刀医はコンソールと呼ばれる操作機に座り、ロボットアームを操作してカメラや鉗子を動かします。鉗子の可動域は人の手首以上あり、全く手振れない鮮明な3D拡大画像を見ながら、あたかも体内に両手を入れているような感覚で操作を進めます。

当面は安全を最優先に考え、術式を制限してロボット手術の導入を行います。まずは直腸癌手術から開始し、徐々に結腸癌や胃癌にも適応を拡大する予定です。これまで通りの開腹手術や腹腔鏡手術も行っていきます。個々の患者さんの病態に応じて、より低侵襲な手術を提供できるように努めてまいります。



消化器外科部長
大垣 吉平

▶ さまざまな疾患に対して、安全性を持って

こ の度、手術支援ロボット「ダビンチ Xi」が当院に導入されました。ダビンチサージカルシステムを用いたロボット支援手術は、前立腺摘除術が2009年に薬事承認され15年が経過しました。ダビンチの機器自体も第1世代から始まり、現在は第4世代のda Vinci Xiへとアップデートされロボットの精度が向上し続けています。

泌尿器科領域のロボット支援手術の対象疾患は、前立腺癌に加え、腎癌、膀胱癌、副腎腫瘍、骨盤臓器脱が保険収載されています。

当院では、まずは前立腺癌からロボット支援手術を開始し、順次他の疾患にも拡大していく予定です。安全性を考慮して、手術件数を制限して実施してまいります。

ようやくといったところですが、これまで以上にさまざまな疾患で地域医療に貢献させていただけるものと考えております。



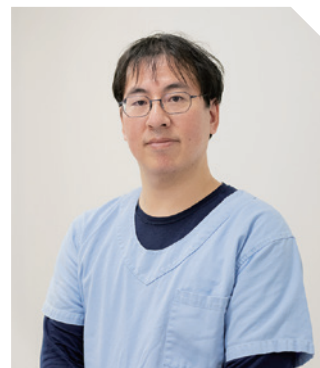
泌尿器科医長
出嶋 卓

▶ 子宮全摘術の選択肢にロボット支援手術も

ダ ビンチを用いたロボット支援手術は、骨盤の深部に病巣のある婦人科疾患に、その利点を十分発揮できると考えられています。執刀医にとっては、より鮮明な3D画像による拡大視野と人間の手の関節のように動く鉗子によって、腹腔鏡手術よりも操作性、作業精度および安全性が向上しています。患者さんにとっては、通常の腹腔鏡手術と同様に傷が小さく、術後の痛みも少なく、回復が早く早期の社会復帰が望めます。

婦人科では子宮筋腫などに対する子宮全摘術がロボット支援手術の適応です。患者さんの状況に応じてロボット支援手術、腹腔鏡手術もしくは開腹手術のいずれが良いか検討して提案いたします。

開始当初は手術時間が若干長くなることが予測されますが、安全性に最大限留意して行っております。(文責:婦人科部長 衛藤 貴子)



婦人科医長
東條 伸平

ご挨拶

平素より当院の地域医療連携におきましてご協力を賜り、感謝申し上げます。遅ればせながら、当院でもより低侵襲でかつ精緻なロボット支援下手術を実践できるようになりました。ダビンチの多関節構造の鉗子や3D画像により、これまでの腹腔鏡手術では困難であった手技が可能になりました。当院ではダビンチ手術の開始にあたり、安全性に最も比重を置き、十分なトレーニングを行い人材育成の強化を図っております。連携施設の先生方に、これまで以上に信頼される病院として役割を果たせるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

副院長・地域医療連携室長 梶山 潔



ダビンチ対応術式

外科領域	腹腔鏡下直腸切除・切断術
泌尿器科領域	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
婦人科領域	腹腔鏡下腔式子宮全摘術

上の術式に限定してロボット支援下手術を開始します。
順次、対応領域、術式を拡大していく予定です。

ダビンチ紹介窓口

地域医療連携室
TEL:0120-541-995 FAX:0120-541-990 (平日 8:30~17:00)

地域連携webセミナー配信予定



各日18:30より配信します。ご視聴いただくにはセミナー登録が必要です。上のQRコードよりお申し込みください。過去の配信動画も上のQRコードからご視聴いただけます。

4月9日	「高齢者てんかん診療の現状」	脳神経内科医長 後藤 聖司
4月16日	「院外から当院へのがん相談の現状」	緩和ケア認定看護師 徳永 浩子
4月23日	「見過ごされる嚥下障害 —不顕性誤嚥と窒息について—」	歯科口腔外科医長 金城 亜紀 (摂食嚥下外来)
5月14日	「眼瞼下垂」	形成外科医員 岡本 理沙
5月21日	「CT更新のご紹介と予約システムについて」	主任診療放射線技師 宮崎 慶子
5月28日	「FED法による腰椎椎間板ヘルニア摘出術」	脊椎外科医長 泉 貞有



公立学校共済組合
九州中央病院
Kyushu Central Hospital

地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院

九州中央病院 地域連携ニュースレター「RELATION」Vol.01 | 編集:広報委員会
発行:公立学校共済組合九州中央病院

〒815-8588 福岡市南区塩原3丁目23-1
TEL:092-541-4936(代) FAX:092-541-4540